資料３

「行政ＤＸ・新たな価値を創出する働き方改革」の取組状況等について

令和７（2025）年２月

行政ＤＸ・新たな価値を創出する働き方改革プロジェクトチーム

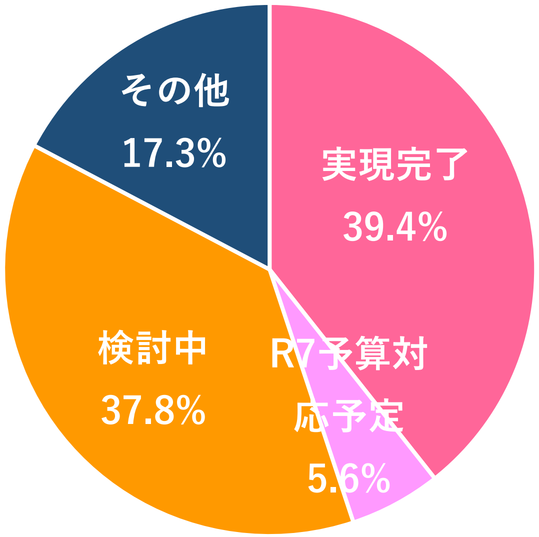
(C) Yamaguchi Pref.

令和６年度の取組状況

○　職員提案648件のうち、
　　255件（39.4%）が実現完了（実現見込み含む）、245件（37.8%）が引き続き検討中

○　令和７年度当初予算において、36件（5.6%）の実現に向け対応予定

職員提案の実現・検討状況



（R6.12時点）

全体件数	648
実現完了	255
令和７年度当初予算で対応予定	36
検討中	245
その他	112

※　やまぐちワークスタイルシフト推進室による調整後の件数

※　その他は法律上の制約やセキュリティ上の課題など、現時点検討に着手できないもの

(C) Yamaguchi Pref.

職員提案の実現・検討状況

山口県

令和６年度の主な実現案件　実現件数（実現見込み含む） 106件

●業務・事務のペーパレス化
議会へのＰＣ持込によるペーパレス化の推進【R6.6】、予算査定のペーパレス化＜重点＞【R6.11】

●執務・通信環境の改善
BYODの本格導入【R6.4】、生成ＡＩ（ＧＰＴ４）の本格導入【R6.7】、業務用モニターの整備【R6.12】、業務効率化ショート動画集の作成【R6.12】、フリーアドレス導入（出先機関）【R7.1】、本庁会議室のWi-Fi環境整備【R7.3予定】

●勤務環境・形態の改善
服装の柔軟化＜重点＞【R6.11】、冷暖房運用の改善＜重点＞【R7.1】

●人事制度・組織等の改善
庁内応援制度の試行【R6.7】、職員エンゲージメントに関するアンケートの実施【R6.10】

●服務・福利厚生等の改善
売店へのＱＲコード決済導入【R6.6】、働き方改革の効果測定の見える化【R7.2予定】

●契約・庶務事務等の改善
共通経費（ガソリン代、電話代）の所管課への一括予算化【R6.10】

(C) Yamaguchi Pref.

山口県

職員提案の実現に向けた今後の取組

01 業務の見直し・ＤＸ等における効率化・高度化した働き方への転換

- 情報共有・協議の効率化や業務の分析・自動化、職員独自のアプリ開発等に資するクラウドサービスの導入
- 情報職を中心とした「県庁ＤＸ推進チーム（仮称）」の設置
- 職員の更なるデジタルスキル向上に向けたデジタル人材育成研修の充実
- 行政窓口業務のＤＸ推進
  - ○ 県有施設の入館料や使用料のキャッシュレス環境の整備
  - ○ 県証紙の廃止に係る手数料の新たな収納窓口でのキャッシュレス環境の整備
  - ○ 補助金交付事務の効率化や県民へのわかりやすい補助金情報の共有（ダッシュボード化、ノーコードツールの活用等の検討）

02 ワークライフバランス実現に向けた多様で柔軟な働き方の推進

- 所属のフリーアドレス等の整備（５所属）
- Ｗｅｂ会議室の追加整備（２か所）
- 紙ファイルの電子化の検討（モデルケースの創出）
- 職員要望等を踏まえたトイレ環境の改善

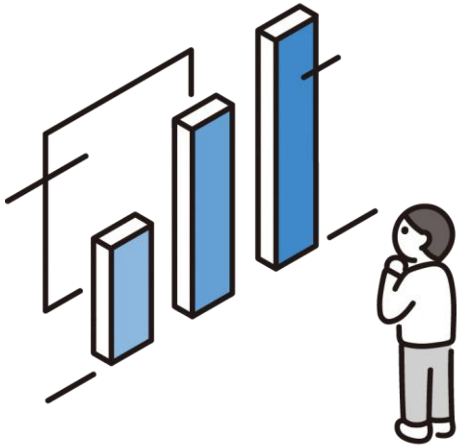
(C) Yamaguchi Pref.

やまぐちワークスタイルシフト

　デジタル技術を最大限に活用し、業務の効率化や新たな働き方の実現を図ることにより、職員の仕事へのやりがいの向上や、ワーク・ライフ・バランスの充実を図るとともに、多種多様な行政ニーズに的確に対応した新たな行政サービスの創出につなげる。

新たな取組

　職員が働く上での基盤となっているシステムにストックされているデータ等を活用し、職員の働き方などを定量的に見える化し、的確な課題の把握を行うとともに、それらを定点観測（モニタリング）することで効果測定を行うこととし、職員の意識の変化など定性的で重要なデータの効果測定についても、定量的な分析ができるよう、昨年10~11月、職員アンケートを実施した。



(C) Yamaguchi Pref.

働き方改革における効果測定

ＫＧＩ
重要目標達成指標

①ワーク・ライフ・バランスが取れていると思う職員の割合、②仕事にやりがいを感じている職員の割合、③生産性の向上を感じている職員の割合

コアＫＰＩ

- 職員１人あたりの時間外勤務時間数
- 年次有給休暇取得日数

業務改善
意識変革

ＫＰＩ

- Teams活用率
- テレワーク実施者数
- 紙の消費状況
- デジタル技術等の活用による業務削減時間数

勤務場所・時間の柔軟化
業務の効率化・質の向上

Teams活用によるコミュニケーションの
最適化及びペーパレスの推進
デジタルツールという労働力の獲得

推　　進

やまぐち ワークスタイルシフト

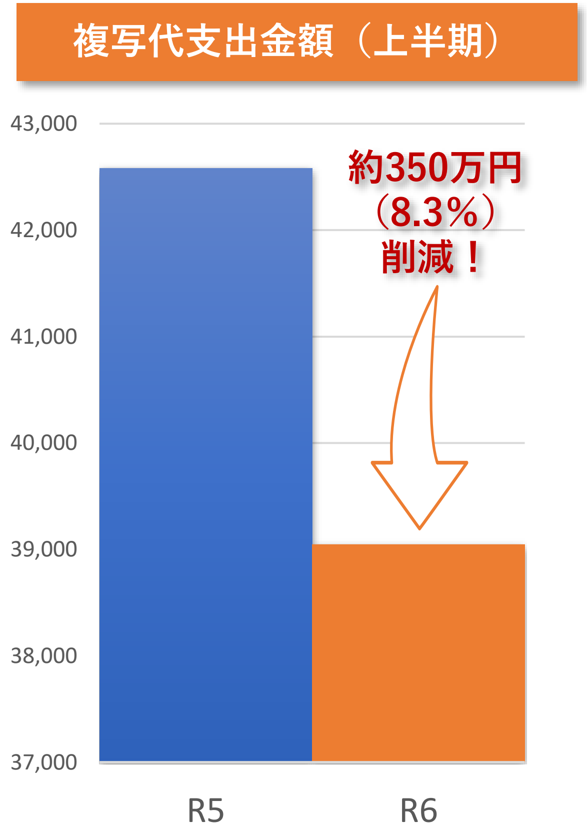
- 職員提案の実現
- 多様な働き方の選択肢
- リスキリング
- 改革風土の発信
- デジタルツールの充実
- アクションスタンプの積極活用

(C) Yamaguchi Pref.

働き方改革における効果測定

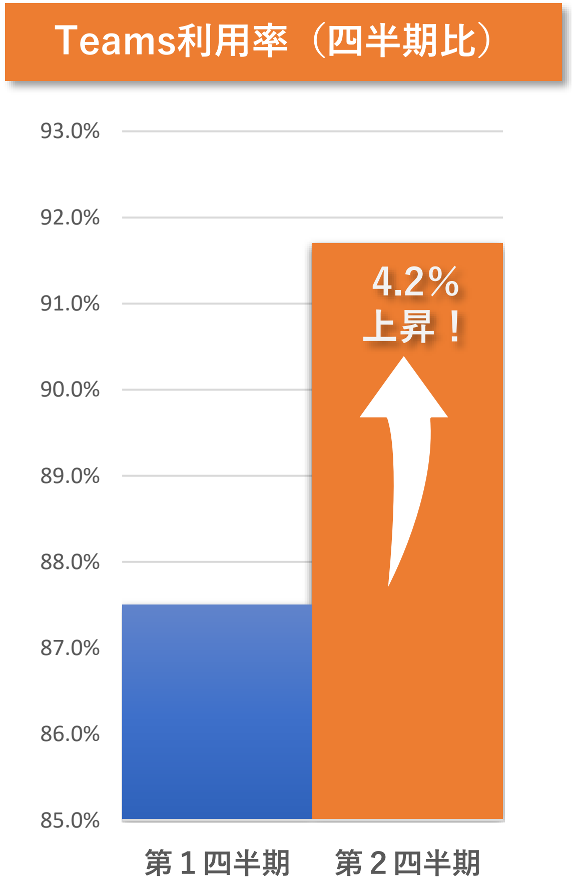
効果測定結果①（コアＫＰＩ＆ＫＰＩ）

紙の消費状況
＜目標＞毎年度、削減させる



契約更新による単価変動があるため、
紙使用枚数とは異なる。（参考値）

Teams利用状況
＜目標＞利用率を維持



年次有給休暇取得日数
＜目標＞年間15日

(C) Yamaguchi Pref.

山口県

効果測定結果②（ＫＰＩ）

職員アンケート概要

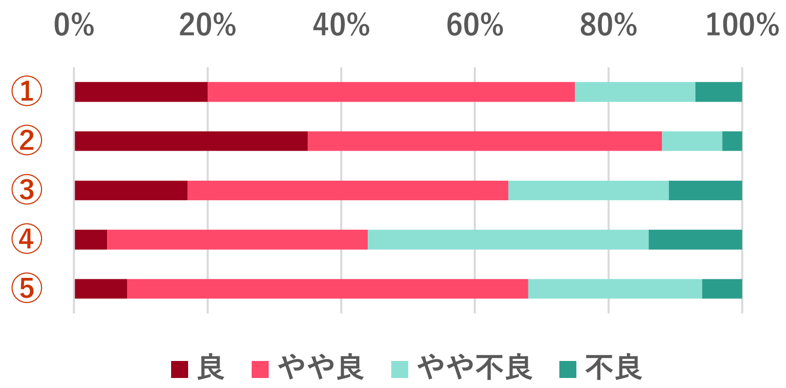
実施期間（21日間）
R6.10.23～11.13

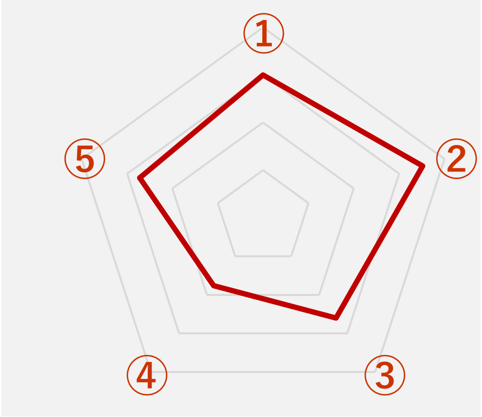
回答率
62.9 ％

回答者
2,501 人

主要指標の評価

KGI①	①ワーク・ライフ・バランス実現	７４％が実感あり
	②職場での自由闊達な意見・議論	８７％が実感あり
KGI②	③仕事のやりがい	６５％が実感あり
KGI③	④生産性向上	４４％が実感あり
	⑤職員研修の満足感	６８％が実感あり

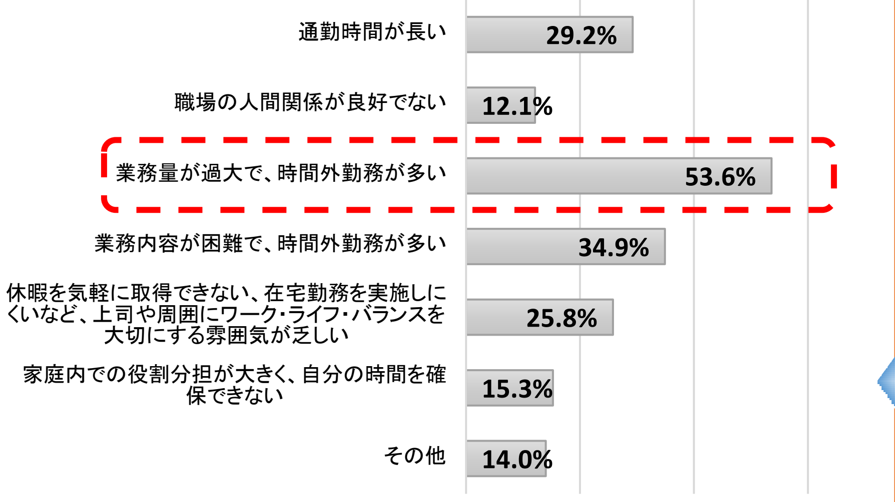




KGI①　ワーク・ライフ・バランスが取れていると思う職員の割合　＜目標＞74%（R6）⇒増加させる（R7）

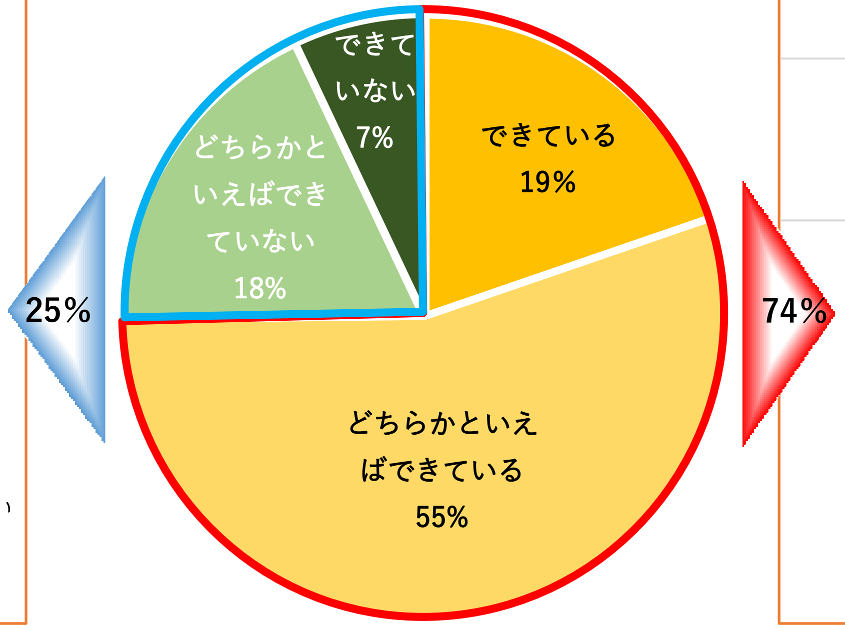
・**ワーク・ライフ・バランスの実現ができている**と回答した職員は**74%**。
・**女性職員**及び**40代職員**で、**ワーク・ライフ・バランスの実現ができている**と回答した職員が、他に比べて**少ない**。
・**ワーク・ライフ・バランスの実現ができない要因**としては、**『業務量が過大で時間外勤務が多い』**と回答した職員は**53.6%**。

実現ができない要因

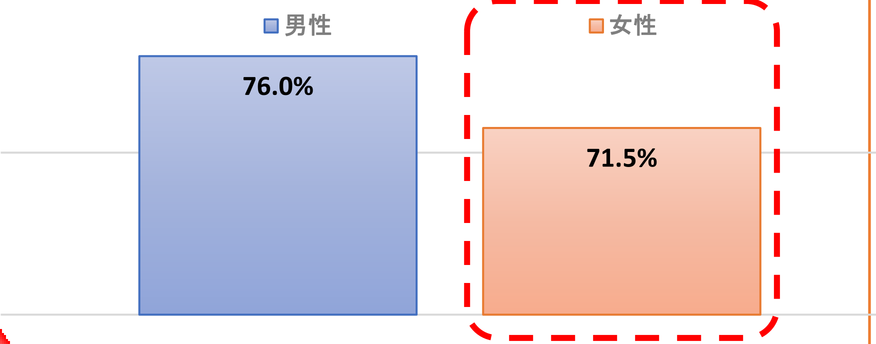


その他（少数意見）
〇窓口業務や休日出勤等があり、職務・業務上、在宅勤務ができない
〇人員が不足しており、自分の代わりになる職員がいない　など

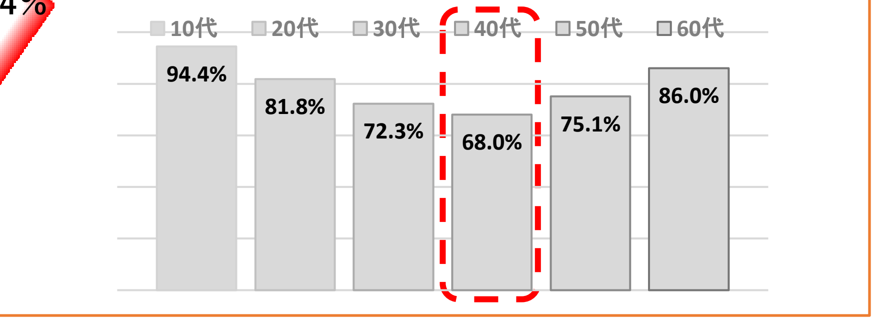
ワーク･ライフ･バランスが取れている と思う職員の割合



男女比較



年代比較



《分析で見えた傾向・対策等》
●女性職員や子育て世代となる中堅職員のワーク・ライフ・バランスが実現できるよう、在宅勤務制度の見直しや、仕事と家庭の両立支援など、引き続き職場環境の整備に取り組むことが必要。
●時間外勤務の縮減や休暇を取得しやすい職場づくりに向け、更なる業務の見直し・効率化が必要。

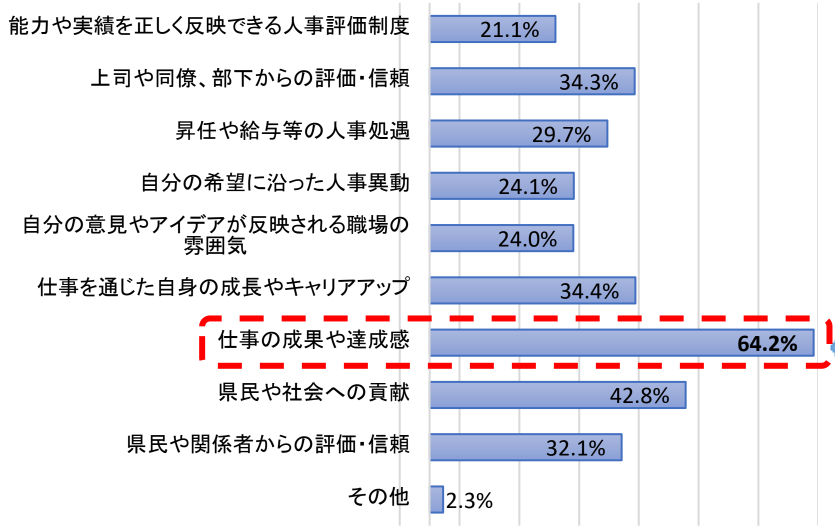
働き方改革における効果測定

山口県

KGI②　やりがいを感じている職員の割合　＜目標＞65％（R6）⇒増加させる（R7）

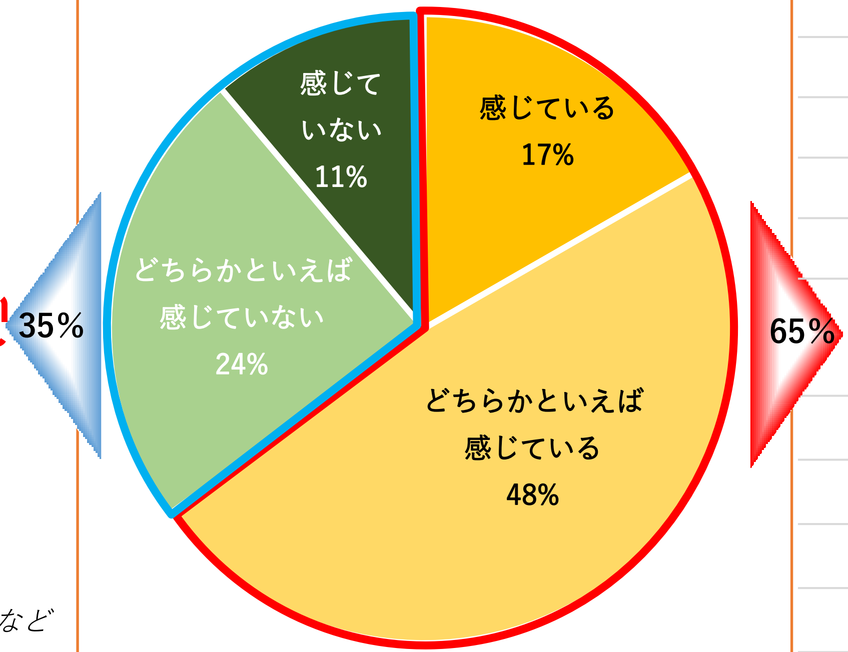
・**今の仕事にやりがいを感じている**と回答した職員は**65%**。
・**30代**及び**主任級**で、**今の仕事にやりがいを感じている**と回答した職員が、他に比べて**少ない**。
・**仕事のやりがいを高める要因**として、『**仕事の達成感**』と回答した職員は**64.2%**。

仕事のやりがいを高める要因

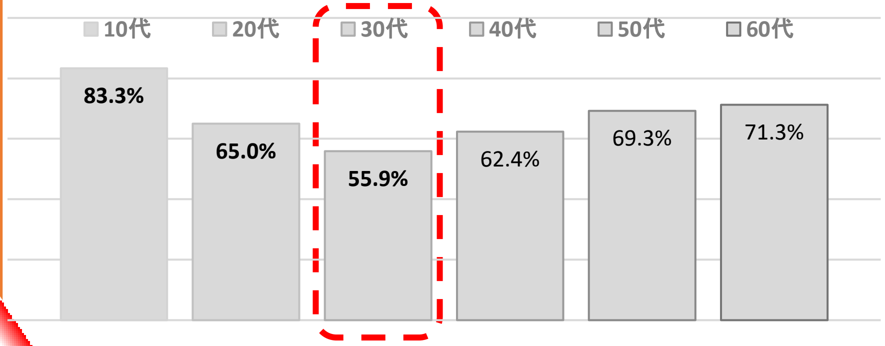


その他（少数意見）
〇自らの能力を発揮できる機会
〇上司からの感謝の言葉、尊敬できる上司ややる気のある同僚　など

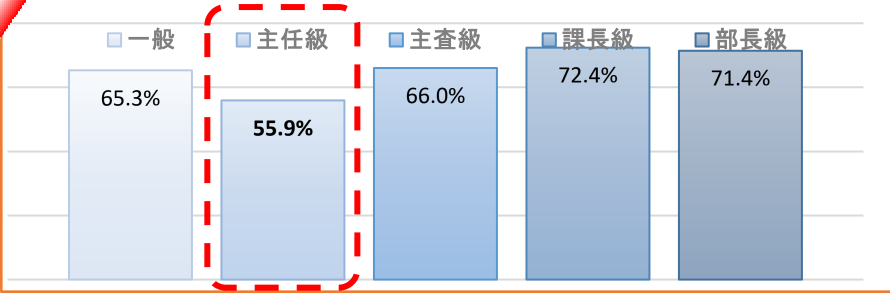
やりがいを感じている職員の割合



年齢比較



職位比較



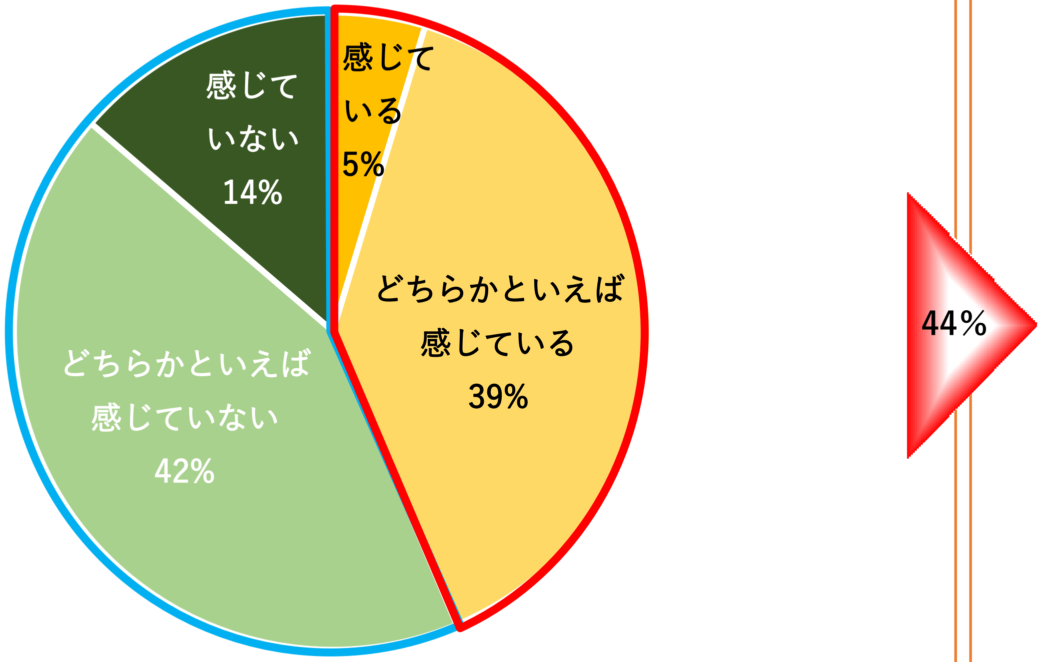
《分析で見えた傾向・対策等》
●中堅世代（特に主任級）に対して、成長意欲の掻き立てやキャリア形成支援を図る人事管理と研修の充実などが必要。
●職員の積極的なチャレンジを通じて仕事の成果や達成感を実感できるような工夫が必要。

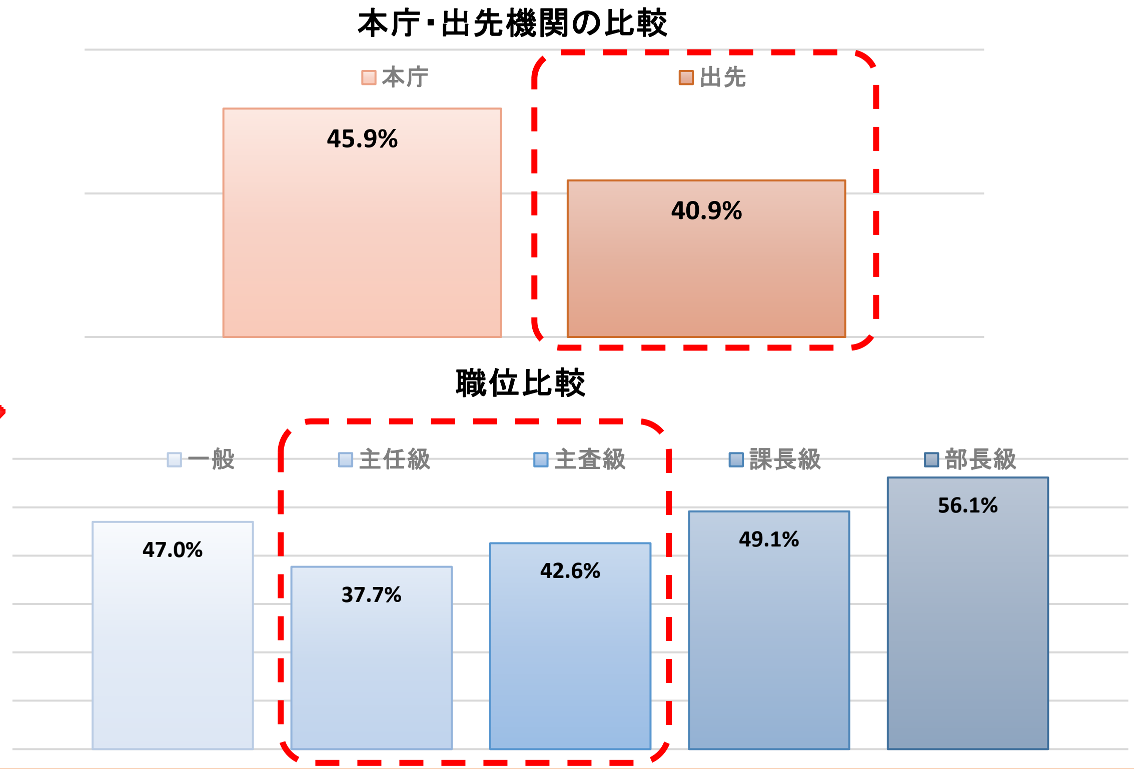
働き方改革における効果測定

KGI③　生産性の向上を感じている職員の割合　＜目標＞44%（R6）⇒増加させる（R7）

・業務の進め方について**生産性の向上を感じている**と回答した職員は**44%。**
・**出先機関職員**及び**主任級、主査級職員**で**生産性の向上を感じている**と回答した職員が、他に比べて**少ない。**

生産性の向上を感じている職員の割合

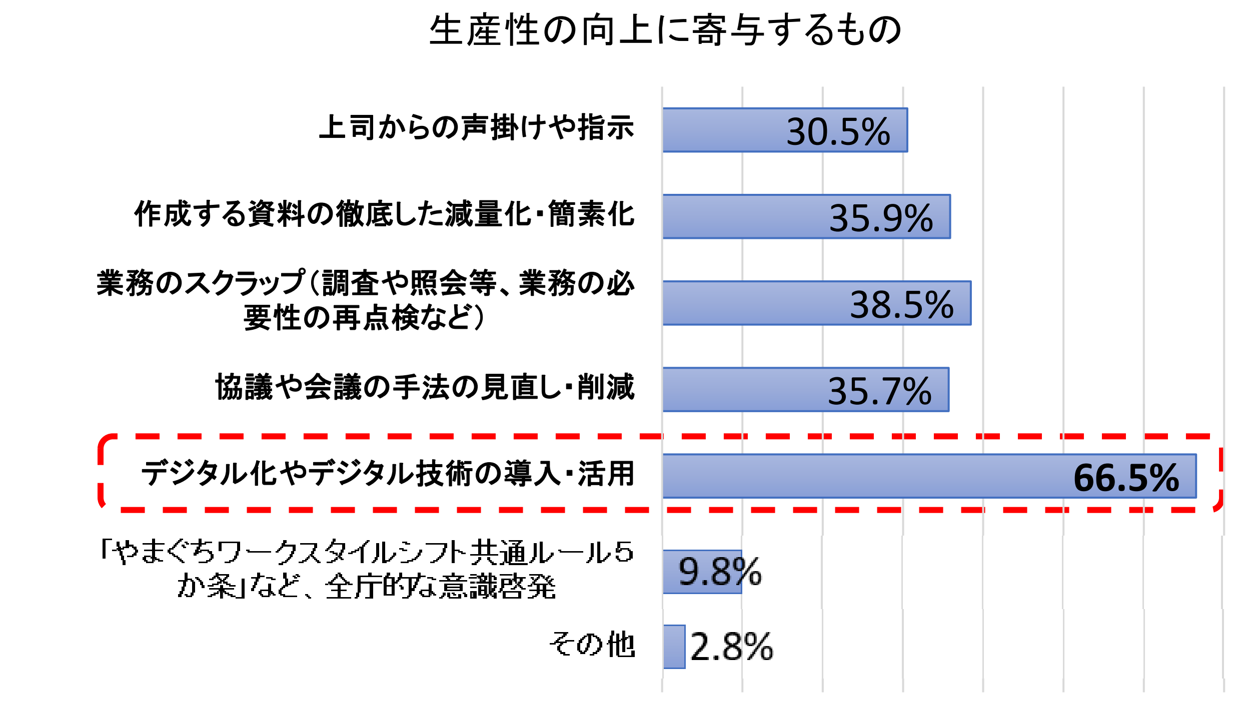


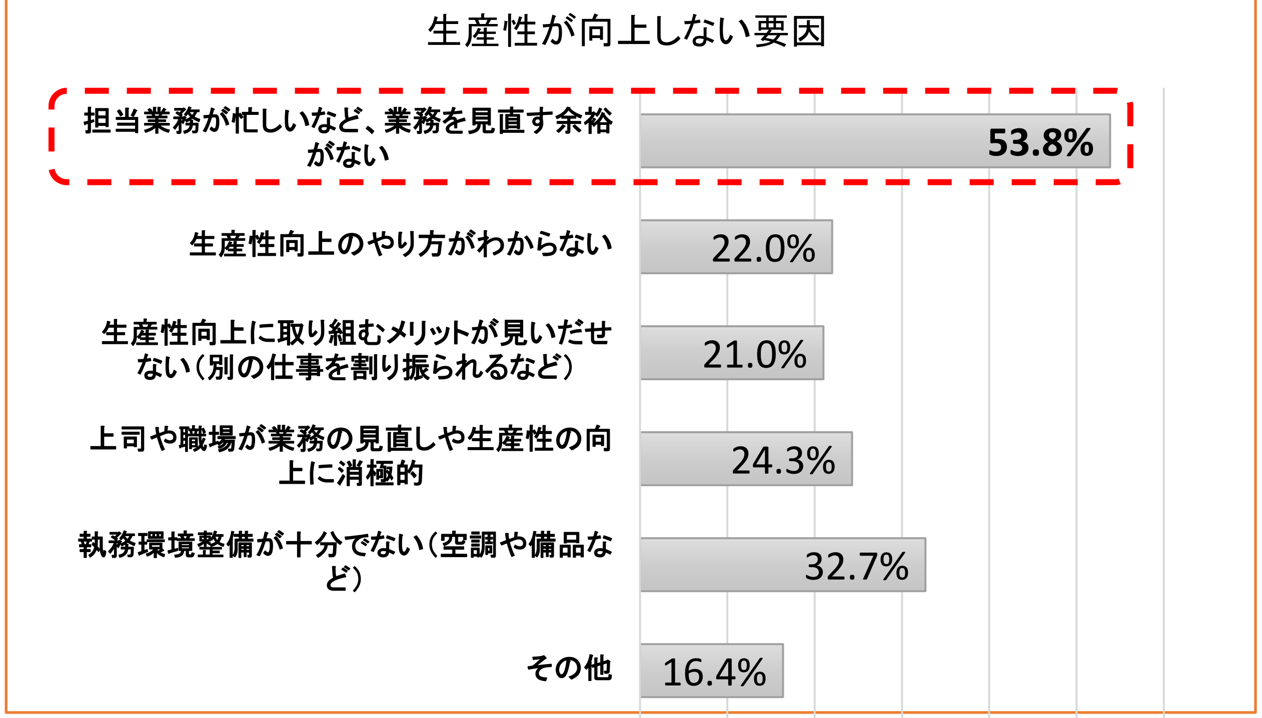


《分析で見えた傾向・対策等》
●電子申請やキャッシュレス決済など窓口業務におけるデジタル化の促進や、タブレットを活用した検査業務の実施など出先機関の業務において更なるデジタル技術の導入・活用が必要。
●デジタル化の進展を踏まえ、改めて全庁的に業務システムの改修や業務の見直し・効率化などが必要。

（KGI③参考）　生産性が向上する要因、しない要因

・生産性の向上を感じている職員のうち、
生産性の向上に寄与するものは、**デジタル化やデジタル技術の導入・活用：66.5%**
・生産性の向上を感じていない職員のうち、
生産性が向上しない要因としては、**担当業務が忙しいなど、業務を見直す余裕がない：53.8%**





《分析で見えた傾向・対策等》
●引き続きTeams等を活用したペーパレス協議や、ＡＩ・ＲＰＡなどデジタル技術の積極的な活用に取り組むことが必要。
●所属長のリーダーシップのもと、見直し・効率化すべき対象業務を抽出し、業務改善を実行することが必要。

知事と若手職員との意見交換会

目　的

●県庁職員自身が仕事にやりがいを持ち、充実した生活を送るため、知事と若手職員が山口県庁の働き方の「現状」と「将来像」を意見交換することにより、「やまぐちワークスタイルシフト」の課題・問題点の抽出や解決方法の整理など、今後の取組の参考とする。
●職員自らが取り組んだ改善事例や成果などを知事に伝え、知事が職員の声を聞きながら取組を進めていくという姿勢を示すことで、本取組に対する職員の機運を高め、行動変容へ繋げていく。

参加者

知事、若手職員８名
（業務改善を実践している若手職員、民間企業経験職員）

日　時

令和６年９月18日（水）10:00～11:30

トークテーマ・内容

山口県庁職員の行動変容に向けて

１　業務改善事例の発表
　［テーマ①］ＲＰＡを活用した業務効率化
　［テーマ②］記者配布オンライン化による利便性向上
　［テーマ③］グループアドレス化による執務環境等改善
２　庁内のマインドシフトに向けた意見交換

(C) Yamaguchi Pref.

1　職員提案の着実な実現

- ○　働き方改革ＰＴで選定した重点案件について、当初予算で対応予定
- ○　中・長期的な期間を要する提案についても、実現に向けた計画的な検討・取組を加速

2　やまぐちワークスタイルシフトの定着・深化

- ○　共通ルール・実践事例集の更新、各種研修等での説明

3　定量的・定性的な効果測定

- ○　職員アンケート、ＫＰＩのモニタリングの実施

4　効果測定結果を踏まえた課題への対応

- ○　生産性の向上に向けた、業務の見直し・効率化の点検

5　知事と職員との意見交換会の開催

(C) Yamaguchi Pref.